

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 4日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330246

研究課題名（和文）

国語科教育改善のための言語コミュニケーションの発達に関する連携的・提案的研究

研究課題名（英文）

Cooperation Proposal Research on Development of the Language Communication for a Japanese Teaching Improvement

研究代表者：植山 俊宏 (UEYAMA TOSHIHIRO)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50193850

研究成果の概要（和文）：

研究組織を5つのグループに分けて活動した。幼小連携班は、幼稚園児の観察から会話能力の実態把握を行った。話すこと班は、小学校児童の話し合いが探究的に進化する発達の実相を明らかにした。読むこと班は、中学校生徒の話し合いが社会的実践として機能する発達の実相を明らかにした。書くこと班は、書く活動における話し合いの機能を分析した。メディアコミュニケーション班は、小規模ながら授業観察、授業開発を行った。

研究成果の概要（英文）：

We divided the research organization into five groups, and worked. The cooperation group between a kindergarten and an elementary school investigated the actual condition of conversation capability by observing kindergarteners. The talking group investigated the developmental stage that elementary school children's talks changed to inquiry. The reading group investigated the developmental stage that junior high school students' talks changed to social practice. The writing group analyzed the function of the talks in the activity to write. The media communication group clarified the actual condition of the communication which uses media by observation of lessons, and development of the lesson.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
2011年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2012年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
年度			
年度			
総計	13,900,000	4,170,000	18,070,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：話し合い 幼小連携 言語能力の発達 連携 教材開発 授業開発

1. 研究開始当初の背景

新学習指導要領完全実施後さまざまな形で取り込まれている言語能力の学習に関して、コミュニケーション能力は中心的な位置にある。このコミュニケーション能力の育成に関して、国語科内、特に中学校段階ではい

まだ不十分な状況にある(全国学力・学習状況調査の結果などから)。

2. 研究の目的

(1)本研究は、この研究課題に対して、科学的基礎の確保に基づき、教材・単元・カリキュラムを提案することを目的とする。また

コミュニケーション能力は、社会的に実効的なものである必要がある。学校教育においては、国語科外の他教科・他活動の学習活動におけるコミュニケーション能力の充実が求められる。

(2)本研究は、この国語科と他教科との連携を図るコミュニケーション能力育成に関する科学的基礎を確保するとともに、教材・単元・カリキュラムを開発し、実践的な方法を提案することを目的とする。

3. 研究の方法

先行研究については、発表論文・著書を分析し、把握を行い、本研究の定位を図った。

研究組織を、幼小連携班、メディアコミュニケーション班、話すこと班、読むことと話すこと連携班、書くこととはなすこと連携班の5班の研究グループに分け、活動した。

それぞれ基礎研究段階として保育観察、授業観察を行い、記録を分析し、言語能力の発現について把握した。そこから研究仮説（授業仮説）を導出した。

最終的に実験授業を行い、指定した研究仮説（授業仮説）の検証を行った。

4. 研究成果

コミュニケーション能力の実態、及びその伸長・向上を図る実験授業の実施、及びその分析・考察を中心に研究の集約を行った。従来国語科では、コミュニケーション能力は、話すこと・聞くことの領域で中心的、限定的に取り組まれていた。だが、本研究においては、読むことの領域、書くことの領域におけるコミュニケーション能力のあり方、及び当該領域に対する効果を解明するために、授業観察、その分析・考察に取り組み、一定のプログラムを構築した。

コミュニケーション能力の実態に関する「科学的基礎」の確保の点では成果を集約した。また「社会的に実効的なコミュニケーション能力」育成、及びそのプログラム構築では、各パートで実験授業が進められており、一定の成果が得られている。これらは、一定のプログラム（単元）として提案可能な教材単元を作成し、実験授業を実施し、分析を行った。主に、幼小連携班と読むことの授業班で集約を行った。

「研究実施計画」の達成状況としては、「コミュニケーション能力の発達モデル案の構築」は、各パートにおいて実験授業が進められ、分析、集約が行われた。「話すこと・聞くこと」パートは、実験授業が進められ、分析を集約した。「読むこと」パートは、岡山市立吉備中学校にて3回の実験授業を行い、その分析・集約を行った。「書くこと」パートは実験授業の実施は困難であり、単元案の作成を行った。

他教科におけるコミュニケーション能力育成プログラムは、中学校段階を中心に科学

的基礎の収集し、分析を行っている。主に他教科の学習を生かした意見文作成の活動を中心に連携の方法を試行的に実施した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計35件）

1. 小学校中学年の発達特性をふまえたコミュニケーション能力の育成に関する研究，山元悦子，稲田八穂，福岡教育大学紀要，査読無，第61号第1分冊，pp.109-125，2012
2. 中学3年生の話し合い能力の育成に向けて—協同性を基盤に論理的探究を行う話し合い能力を育てる—，山元悦子，田丸陸子，福岡教育大学紀要，査読無，第62号第1分冊，（印刷中），2012
3. 読むことの教育の構想，田中智生，岡山大学国語研究，査読無，26号，pp.21-28，2012
4. 読む力が育つ「おもしろ見つけ」—読者反応理論を取り入れた物語の授業—，田中智生，小川孝司，三省堂，査読無，印刷中，2012
5. 情報を活用する力を支えるコミュニケーション意識，上田祐二，月刊国語教育研究（日本国語教育学会），査読無，485号，pp.4-9，2012
6. 国語科におけるICT活用指導力の育成を図る実践の試み—電子黒板の活用を課題とした教員養成大学における演習—，上田祐二，語学文学（北海道教育大学語学文学会），査読無，50号，pp.1-12，2012
7. 国語科における対話型学びの授業をつくる，鶴田清司，河野順子，明治図書，全216頁，2012
8. 授業で論理力を育てる試み「対話」で広がる子どもの学び，内田伸子，鹿毛雅治，河野順子，熊本大学教育学部附属小学校，明治図書，全119頁，2012
9. 解釈を巡って対話する文学の授業の研究，寺田守，京都教育大学紀要，査読無し，121号，印刷中，2012
10. 読むという行為を推進する力，寺田守，溪水社，査読無，全390頁，2012
11. 話し合うことの情意的側面に対する指導の実際—小学校高学年における一次的意欲に機能する環境整備—，若木常佳，北川尊士，福岡教育大学紀要，査読無，第61号第1分冊，pp.127-134，2012
12. 言語活動における国語科の役割—話し合いの指導について—，若木常佳，福岡教育大学国語科研究論集，査読無，第53集，pp.69-80，2012
13. 読書で豊かな人間性を育む 児童サービス論，難波博孝，山元隆春，宮本浩治編，学芸図書，査読無，全258頁，2012
14. 小学生のコミュニケーション能力の発達に関する縦断的研究—同一課題を用いた話し合いの学年間の差異に着目して—，山元悦

子, 福岡教育大学紀要, 査読無, 第 60 号第 1 分冊, pp.49-72, 2011

15. 国語科における論理的思考力を育てる題材の開発—「聞く話す」領域において—, 中村学, 山元悦子, 教育実践研究 (福岡教育大学教育実践センター), 査読無, 19 号, pp.1-8, 2011

16. 絵本は, 子どもが読者となることを, どのように励ますのか, 山元隆春, 国語科教育, 査読有, 69, pp.7-8, 2011

17. 文学の教え・学びをどのように教えるか, 山元隆春, 論叢国語教育学, 査読無, 復刊 2 号, pp.61-79, 2011

18. 言語コミュニケーション力に培う授業構想—「相互作用モデル」を中心に, 田中智生, 月刊国語教育, 査読無, 30 巻 12 号, pp.50-53, 2011

19. 国語科教育におけるインターネットのメディア・リテラシー—ネットワーク・コミュニケーション学習のための基礎的考察—, 上田祐二, 旭川国文 (北海道教育大学旭川校国語国文学会), 査読無, 24 号, pp.1-15, 2011

20. 論証能力を支える論理的思考力の発達に関する調査・論理科カリキュラム開発へ向けて, 河野順子, 熊本大学教育学部紀要 (人文科学), 査読無, 60, pp.7-16, 2011

21. 話し合う力の育成をめざした教科書教材の実際と課題—昭和 27 年~37 年の中学国語教科書の場合—, 若木常佳, 教育学研究ジャーナル (中国四国教育学会), 査読有, 9 号, pp.71-80, 2011

22. 話す・聞く能力育成に関する国語科学習指導の研究, 若木常佳, 風間書房, 査読無, 全 347 頁, 2011

23. 大村はまの年間カリキュラムに位置づく入門期古典学習指導, 坂東智子, 国語科教育, 査読有, 第 69 集, pp.51-58, 2011

24. 「読書活動の充実」をどう計画するか—セット教材による読書活動を重視した説明的文章の授業 比較して読むことの有効性—, 河野順子, 教育科学国語教育, 査読無, 727, pp.14-16, 2010

25. 個と共同体との関係性を築く古典学習指導—大村はまの単元学習指導「古典へのとびら」(昭 34)を中心に—, 坂東智子, 国語科教育, 査読有, 第 68 集, pp.51-58, 2010

26. 自己との関わりを意識化する古典学習指導の考察—大村はまの単元学習指導「古典入門—古典に親しむ」(昭和 25 年)を中心に—, 坂東智子, 教育実践学論集 (兵庫教育大学連合大学院研究科), 査読有, 第 11 号, pp.83-95, 2010

27. 読むことの授業における類似性に基づいた推論の検討—小学校低学年の授業の考察を中心に—, 寺田守, 京都教育大学国文学会誌, 査読無, 36 号, pp.25-38, 2010

28. 筆者や友達と対話しながら読み深める,

稲田八穂, 実践国語研究 (明治図書), 査読無, 298, pp.35-37, 2010

29. 小学校高学年の発達特性をふまえたコミュニケーション能力の育成に関する研究, 山元悦子, 稲田八穂, 福岡教育大学紀要, 査読無, 第 1 分冊 59, pp.119-142, 2010

30. 話し合う力を育てるための教材開発—教材「話し合い劇」の心的作業に対する指導の可能性—, 若木常佳, 福岡教育大学紀要, 査読無, 第 59 号第 1 分冊, pp.143-151, 2010

31. ポストモダン絵本論からみた文学教育の可能性, 山元隆春, 国語教育研究, 査読無, 52, pp.72-93, 2010

32. 長編小説を核としたリテラシー教育, 山元隆春, 論叢国語教育学, 査読無, 復刊 1 号, pp.88-100, 2010

33. 「編集する」言語活動の学習内容—新聞作りに焦点を当てて—, 上田祐二, 旭川国文 (北海道教育大学旭川校国語国文学会), 査読無, 23 号, pp.1-13, 2010

34. 批判的に読むことの授業づくりの視座—説明的文章指導における批判の基準の検討を通して—, 上田祐二, 旭川国文 (北海道教育大学旭川校国語国文学会), 査読無, 21・22 合併号, pp.26-40, 2010

35. 「参加型文化」論からみたメディア・リテラシー教育の提唱—Henry Jenkins(2009) *Confronting the Challenges of Participatory Culture* を中心に—, 砂川誠司, 広島大学大学院教育学研究科紀要, 査読有, 第二部 59 号, pp.133-140, 2010

[学会発表] (計 5 件)

1. 富安慎吾, パターンランゲージによる方略の記述に関する試み—小学校国語科教科書における「話すこと・聞くこと」の検討を中心に—, 第 123 回全国大学国語教育学会, 2012 年 10 月 28 日, 富山大学

2. 幾田伸司, 山元悦子, 若木常佳, 稲田八穂, 河野順子, 三浦和尚, 小学生の話し合う力をどう見取るか—教科書学習用語に基づく指標の開発—, 第 123 回全国大学国語教育学会, 2012 年 10 月 27 日, 富山大学

3. 山元悦子, 松尾剛, 若木常佳, 稲田八穂, 河野順子, 幾田伸司, 三浦和尚, 小学生の話し合う力をどう見取るか—発達研究に依拠した実態調査を手がかりに—, 第 123 回全国大学国語教育学会, 2012 年 10 月 27 日, 富山大学

4. 上田祐二, 中学校におけるネットワーク・コミュニケーションの指導—読み手の意識化をねらいとした授業の検討—, 第 123 回全国大学国語教育学会, 2012 年 10 月 27 日, 富山大学

5. 山元悦子 (福岡教育大学) 稲田八穂 (筑紫女学園大学), 小学校中学年の発達特性をふまえたコミュニケーション能力の育成に関する

る研究, 第 122 回全国大学国語教育学会,
2012 年 05 月 26 日, 筑波大学

〔図書〕(計 1 件)

1. 読むという行為を推進する力, 寺田守, 溪水社, 査読無, 全 390 頁, 2012

6. 研究組織

(1) 研究代表者

植山 俊宏 (UEYAMA TOSHIHIRO)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 5 0 1 9 3 8 5 0

(2) 研究分担者

田中 智生 (TANAKA HORIO)

岡山大学・教育学部・教授

研究者番号: 0 0 1 7 1 7 8 6

幾田 伸司 (IKUTASINJI)

鳴門教育大学・学校教育学部・准教授

研究者番号: 0 0 3 2 0 0 1 0

寺田 守 (TERADA MAMORU)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号: 0 0 3 8 1 0 2 0

中西 淳 (NAKANISI MAKOTO)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号: 1 0 2 6 3 8 8 1

山元 隆春 (YAMAMOTO TAKAHARU)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号: 9 0 2 1 0 5 3 3

山元 悦子 (YAMAMOTO ETUKO)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 2 0 2 2 0 4 5 2

守田 庸一 (MORITA YOICHI)

三重大学・教育学部・准教授

研究者番号: 6 0 3 2 5 3 0 5

住田 勝 (SUMIDA MASARU)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号: 4 0 2 7 8 5 9 4

櫻本 明美 (SAKURAMOTO AKEMI)

神戸親和女子大学・発達教育学部・教授

研究者番号: 7 0 3 1 9 8 4 6

村井 万里子 (MURAI MARIKO)

鳴門教育大学・学校教育学部・教授

研究者番号: 3 0 1 7 4 2 6 2

三浦 和尚 (MIURA KAZUNAO)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号: 4 0 2 3 9 1 7 4

富安 慎吾 (TOMIYASU SHINGO)

島根大学・教育学部・講師

研究者番号: 4 0 5 3 4 3 0 0

間瀬 茂夫 (MASE SHIGEO)

広島大学・教育学研究科・准教授

研究者番号: 9 0 2 7 4 2 7 4

坂東 智子 (BANNDUO TOMOKO)

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号: 6 0 6 3 4 7 6 4

稲田 八穂 (INADA YAHO)

筑紫女学園大学・人間科学部・准教授

研究者番号: 2 0 6 1 2 5 1 8

若木 常佳 (WAKAGI TUNEKA)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 9 0 4 5 4 5 7 9

河野 順子 (KAWANO JUNKO)

熊本大学・教育学部・教授

研究者番号: 8 0 3 8 0 9 8 9

宮本 浩治 (MIYAMOTO KOJI)

岡山大学・教育学部・准教授

研究者番号: 3 0 5 8 3 2 0 7

(3) 連携研究者

()

研究者番号: